十日町タイムス

昭和30年10月3日
第三種郵便物認可

産業廃棄物を燃料に転換

技術協力で国内初のバイオシステム開発

食肉製造加工の㈱ミートコンパニオン（阿部昌史社長・東京都立川市）と環境プラント設計施工の㈱グリーンエナジー（小海孝雄社長・市内高田町6）、総合設備の㈱拓越（関谷克浩社長・市内本町7）の3社は25日、市内高山の㈱ミートコンパニオン新潟第二工場で記者会見し、これまで産業廃棄物処理していた食肉加工工程で生じるフロス（浮上油脂分）を燃焼して再利用する、バイオマスボイラー給湯システムを国内で初めて共同開発したと発表した。

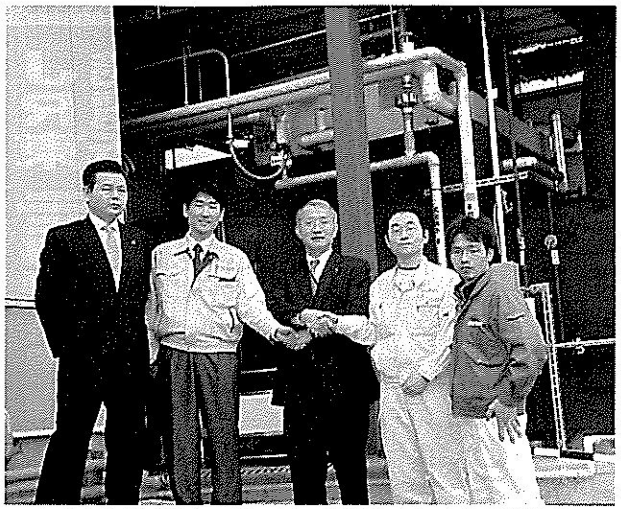
3社はともに、十日町市環境基本計画に基づいて昨年8月設立された市民環境会議バイオマス利活用部会のメンバー。市内の異業種同士の技術協力で廃棄物を再利用する自己完結型の国内初のバイオマスシステムを共同開発した。CO_2削減などの地球温暖化対策や不況化で経費削減に高い関心が寄せられているだけに、大きな注目が集まりそうだ。小海社長は「十日町発の全国初の事業として発信したい」と意気込んでいる。

㈱ミートコンパニオン新潟第二工場・デリカセンター（高野直人センター長）は平成18年に竣工し、主に牛丼やハンバーグ、角煮などの加熱食肉調理食品を製造。製造過程でラード（純粋油）とともに多量のフロスが排出され、産業廃棄物として費用をかけ専門業者に委託処理していた。

今回のシステムは、これをボイラーで燃料として燃やし、しかもその熱を給湯に再利用するもの。製造工程では加熱加工や油落としなどで多量の熱湯が必要で、これまではA重油を燃やしていたが、これを30％削減する目標だ。

同工場敷地内に総事業費5600万円でボイラーシステムを設置、10月26日から稼働させている。11月の稼働実績から年間で約1千万円の経費削減につながると予測している。

㈱ミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役員は「廃棄物を何とか再利用してエコにつなげたいと考えていた。消費者もエコ対策に商品価値を見いだしてきている。環境問題で商品に付加価値を付け、競争力ある商品化につなげたい」と狙いを語った。



バイオボイラーの前で固い握手を交わす3社関係者

遊び心たっぷりミニ火焔土器

ギャラリー6坪と陶芸家村山さんがコラボ

○…親指大ほどで遊び感覚たっぷりの素焼きミニ火焔土器オブジェ「どきモドキ」が発売されている。「都会のショップでも気軽に並べられる商品を」とギャラリー6坪を運営する春日徹さんと村山大介陶芸研究所が共同で企画した＝写真。

○…土は市内産出の粘土を100％使った。全て手づくりで「同じものは二つとない」が売りの一つ。アロマオイルを染み込ませれば香りも楽しめる。1個5百円でクロス10、キジマで販売しているほか、ストラップやキーホルダー（7百円）バージョンもある。

郡市

第80回関
類鑑評会の
行われ、郡
吟醸酒の部
津勝幸社長
の「霧の塔」
沼酒造㈱（
市内中条八
子」、㈱松乃
実社長・市
乃井」がそ
輝いた。

今回は、
新潟、長野、
茨城、埼玉
酒の部に2
部に221
68場、71場
賞を受賞し
うち酒処
79場、燗酒
23場、35場
賞に選ばれ
燗酒の部
した魚沼酒
は「入賞酒

貴重な水を

信濃川発電

化プロジェクト」を設置し、河川法令等の遵守に関する社員教育を実施するなど「意識面の対策」や「会社の組織、制度の改善」、意思の疎通などに係る「風土面の改善」などに取り組んできた。

・許可を受けずに新築・改築した工作物等の是正に取り組み、10月27日に北陸地

の調和に向けて取り組んでいく。

・「宮中取水ダム魚道構造改善検討委員会」を設置し検討を開始した。

・市民を始め、関係者と河川環境について話し合いをさせていただく。

・河川環境に対する取り組みが不十分であったことを深く反省し、「信濃川の河川環境の維持向上等、環境と

川発電所に
望について
していく。
・河川管理
ただきなが
施策を着実
・今後、地
する様々な
る皆さまと
実現してい
⑤水利権の
ついて

を市民の様々な声にしっかり向き合ってこなかった。

・そのような状況下でさらに不正取水等の行為を行っていた。

②再発防止対策について

・全社的にコンプライアンス（法令遵守）の重要性について徹底した。

・「水力発電業務に関する部外有識者委員会」及び「発電所等における業務改善強